銅・アルミ 市況見通し

9月

橋本アルミ取締役
橋本 健一郎氏レポート

銅

7月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で48・8％増の6万5710㌧。

品種別では銅条が2万3989㌧で同54％増（08年に次ぐ過去第2位の生産量）、黄銅棒が1万5017㌧で同45％増、銅管が8081㌧で同22％増、黄銅条が8416㌧で同88％増だった。

7月の銅電線出荷量は同4・7％増の5万9800㌧で、うち国内が同1・4％増、輸出が同133・6％増だった。

銅輸出は、電気銅が同34・6％減の4万8760㌧、銅スクラップが同32・1％減の2万3824㌧。

銅輸出は電気銅が内需要因から減少し、銅スクラップが旺盛な外需に伴い増加した。

銅輸入は、電気銅が同75％減の100㌧、銅スクラップが同4・9％増の9811㌧だった。

銅輸入は電気銅が内需要因から急減し、銅スクラップは内需回復により微増となった。

銅スクラップ景況予想

電気銅建値は一時、111万円から一段下の106万円まで急落。その後に、110万円まで回復した。このことから発生が無く、流通（一次問屋）在庫は薄い。

需要面は、前月に続き中国のコロナ感染拡大による部品調達の遅れに伴う自動車需要の減少から、生産が減少傾向にある。ただ、今のところ需要家の買い意欲はあり、仮に急落してもその価格での販売に躊躇する問屋も多いため、定期で入らないメーカーが高値買いの傾向が続くと見ている。

LME銅・為替予想

今月も「デルタ株によるコロナ感染拡大動向」と「米中の景気動向」に左右される。

前者は、ワクチン接種により感染拡大が治まっていた欧米が、新株（デルタ株）により再び感染拡大の危機に陥っている。ただ、今のところ感染力は未知数でデータもない。ワクチン接種のさらなる拡大によって、感染拡大は防げるのではと見込んでいる。

後者は、直近の景気指標で8月の中国・製造業購買担当者景気指数（PMI）が50・1と、事前予想の50・2や前月の50・4から低下した。コンファレンス・ボード（CB）が発表した8月の米消費者信頼感指数の結果は113・8で、予想の123・0や前回125・1（129・1から修正）を下回った。中国の8月の財新・中国製造業購買担当者景気指数（PMI）が昨年4月以来、初めとなる50割れとなったことから、追加的景気対策が無ければ失速するのではないかと予想している。

アルミ

7月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同16・0％増の16万4416㌧となり7カ月連続で前年同月を上回った。生産量は板類が同14・6％増（7カ月連続の増加）の10万2400㌧、押出類が同18・4％増（5カ月連続のプラス）の6万2016㌧だった。

7月のアルミニウム2次合金・同合金地金生産は同37・3％増の7万2330㌧（9カ月連続の増）。出荷は同32・5％増の7万1811㌧（9カ月連続の増）だった。

輸出はアルミ新地金が同69・1％増の162㌧、アルミ2次合金が同38・6％増の2236㌧、アルミスクラップが同21・1％増の2万3930㌧、アルミ缶が同8・5％増の7340㌧。

輸入はアルミ新地金が同10・2％増の9万7413㌧、アルミ二次合金が同89・1％増の7万6709㌧、アルミスクラップが同47・1％減の304㌧、アルミ合金スクラップが同107％増の5148㌧だった。

アルミ輸出は、相場の急騰や外需が比較的好調なことを受けて大幅に増加した。

アルミ輸入は、国内自動車販売の好調から大幅増となった。

アルミスクラップ景況予想

LME価格は前月一段高の2600～2700㌦台で高止まりした。このため流通（一次問屋）の在庫は玉不足が続くと見込んでいる。

前月に続き中国・コロナ感染拡大による部品調達の遅れに伴う自動車需要の減少から生産は減少傾向にある。

需要面は、今のところ買い意欲があり、メーカー在庫は気薄な状況が続くと予想している。

9月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	9000～10000㌦	横ばい
電気銅建値	102～115万円	横ばい
為替（1㌦）	109～111円（1カ月間TTM）	変わらず

9月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2600～2650㌦（現物後場買い）	強い
スクラップ	据え置きからプラス5円（前月最終価格より）	強い